広告

アレルギーケア最新NEWS

アレルギーの専門家6人による最新レポート！「L-92乳酸菌」

アトピー性皮膚炎 通年性鼻炎 花粉症

注目のアレルギー対策

アレルギーケアフォーラムが小児・成人アトピー性皮膚炎の最新の研究成果を発表

現在国内では、全人口の約2人に1人がアトピーや花粉症をはじめとしたアレルギー疾患にかかっているといわれている。このような背景のもと、「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム(代表・鳥居新平名古屋大学名誉教授、社アレルギー科こどもクリニック院長)」は、最新の研究や臨床における情報発信活動の一環として、2013年6月13日にミニシンポジウム～「L-92乳酸菌」によるアトピー性皮膚炎・通年性鼻炎・花粉症への有効性データがすべ～を開催した。小児アトピー、通年性鼻炎、花粉症など、さまざまなアレルギーへの有効性データがすでに報告されている「L-92乳酸菌」だが、今回は最新の研究発表による小児・成人アトピー性皮膚炎への対策とその成果をレポートする。

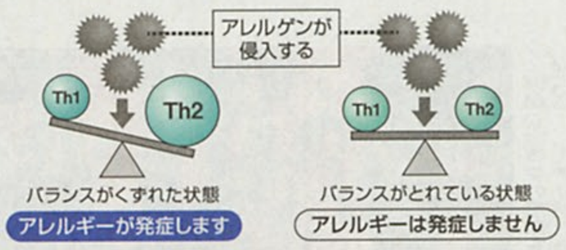
医学博士 池澤善郎 先生

横浜市立大学名誉教授・国際医療福祉大学教授(同大学熱海病院上席副院長、医療局長)
専門はアトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、接触皮膚炎など。日本接触皮膚炎学会会長、日本職業環境アレルギー学会会長、日本皮膚アレルギー学会会長、日本皮膚科学会東京支部学術大会長、日本アレルギー学会会長、東京都アレルギー性疾患対策検討委員会委員などを歴任。著書に「アトピー性皮膚炎 ここまで分かった!ここまで治る!」(北隆館)、「薬疹のすべて」(南江堂)など。

増える成人アトピー性皮膚炎と今後の対策の在り方

国際医療福祉大学教授 池澤先生からは「アトピーの現状とその課題」というテーマのもと、発表が行われた。カラダの免疫系が過剰反応し発症するアレルギーだが、ヒトの免疫システムには、司令塔の役目をするTh1(感染予防因子)とTh2(アレルギー因子)という2つの細胞がある。それぞれはお互いにバランスを取りながら免疫をコントロールしているが、バランスがくずれた状態で、アレルギーを引き起こす物質であるアレルゲンが体内に侵入すると、Th2系の過剰な反応が起きてしまう(図1)。

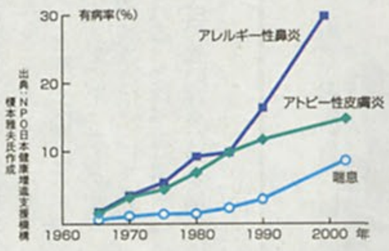
●アレルギー発症メカニズム(図1)



年々増え続けるアレルギーの有病率(図2)だが、アトピー性皮膚炎に関しては、いったん治まっていた乳幼児期のアトピーが成人まで続く例や、再び成人アトピーとして発症する例も増えているのだそうだ。

環境や生活習慣が深く関わっているアトピーの発症要因だが、いま特に注意すべきポイントとして、池澤先生は「皮膚バリア障害」を挙げている。「皮膚には表面に角質層と呼ばれる部分があります。正常な皮膚なら、この角質層とそのすぐ下の表皮がバリアとなって細菌やアレルゲンの侵入を防ぎ、皮膚内部の水分の過剰な流出を防いでくれます。しかし、ふだんの生活の中でこの皮膚のバリア機能が傷つけられると、そこからアレルゲンが入り込んでアレルギーを発症しやすくしてしまうのです。強い界面活性剤の入った日用品や化学繊維の衣類は避け、昔風の石けんを使うとか、綿やシルクなどの自然素材の物を着ることをおすすめします」とのことだ。

●日本におけるアレルギー疾患の増加(図2)



アトピーへの今後の対策についても「これまではステロイド軟膏や抗炎症外用薬を塗ることで抑えていました。しかし、今後は、単純に外側からのケアだけではなく、生体が持っている調節機能をうまく生かして、Th1とTh2のバランスを保たせることが大切です。これが今後の新しいアトピー対策になるのではないかと思っています」との見解を示してくれた。

稲垣直樹 先生

岐阜薬科大学教授

アトピーの慢性化と「L-92乳酸菌」の効果

続いて岐阜薬科大学教授 稲垣先生の発表では「アトピーの慢性化」について、その研究成果が解説された。アトピーの慢性化については複数の因子がからむことによって皮膚炎が増幅され、炎症状態が持続すると考えられている。稲垣先生によれば、「この炎症増幅のループを断ち切ることで、症状を軽減することができる」のだという。アトピー慢性化因子の働きを止める研究は、すでに進められており、今後アトピー性皮膚炎の治癒につながっていくことが期待されている。

さらに、アトピー性皮膚炎に対する「L-92乳酸菌」の有効性についての実験結果も発表され、長期間継続して「L-92乳酸菌」を摂取することで、アトピー性皮膚炎が軽減する可能性が明確に示された。「L-92乳酸菌」の効果を得るには、継続的な摂取が一つのポイントだといえそうだ。

医学博士 鳥居新平 先生

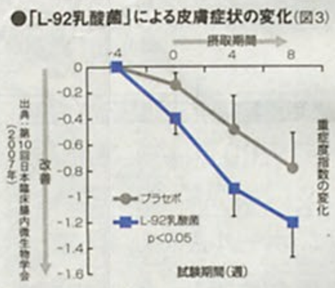
名古屋大学名誉教授・一社アレルギー科こどもクリニック院長　専門は臨床栄養学、アレルギー学、小児科学。日本小児アレルギー学会会長、日本アレルギー学会会長、厚生労働省特定用途食品検討部会委員などを歴任。日本を代表するアレルギーの専門家。著書に「小児ぜん息・アレルギー疾患食事療法HANDBOOK」(医歯薬出版)、「子どもの食事とアレルギーQ&A」(共著／第一出版)など。

小児アトピー性皮膚炎に続き、成人アトピーへの有効性も

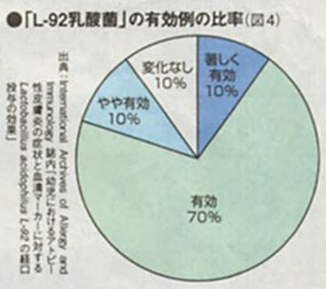
横浜市立大学大学院医学研究科教授 相原先生からは「成人アトピー性皮膚炎の特徴と「L-92乳酸菌」の治療効果」として、成人アトピー性皮膚炎にスポットを当てた発表が行われた。

いままで、小児のアトピー性皮膚炎患者を対象とした「L-92乳酸菌」の有効性については実験により確認されている。これは鳥居先生が日本臨床腸内微生物学会で発表したもので、4歳から15歳までのアトピー性皮膚炎患者20名を対象に、「L-92乳酸菌」を摂取してもらい、その経過を比較した試験だ。図3はそのデータで、アトピーの症状の重さをスコア化したもの。横軸の-4から0週までが観察期間。0から8週までが「L-92乳酸菌」の摂取期間となっている。「L-92乳酸菌」を摂ることで重症度指数が低下し、症状が改善してきていることがよくわかる。図4でも有効と感じる割合が90%にも達している。

●「L-92乳酸菌」による皮膚症状の変化(図3)



●「L-92乳酸菌」の有効例の比率(図4)



そして、今回成人への「L-92乳酸菌」の効果においても同様の結果を得ることができたことが相原先生より発表された。「L-92乳酸菌」を摂取したことで、赤みなどの炎症の強さ、面積、かゆみの程度に関して、優位な緩和が見られた。さらに血液検査の結果、「L-92乳酸菌」の働きによるアトピー症状の改善メカニズムの一端として、Th2の過剰反応が抑えられ、炎症が緩和された可能性が明らかになってきている。難治性の成人アトピー性皮膚炎において、このように明確な有効性が確認できたのは非常に珍しく、「L-92乳酸菌」のアレルギー疾患への効果を考える上で画期的な研究成果だといえるだろう。

相原道子 先生

横浜市立大学大学院医学研究科教授

橋本雅仁 先生

鹿児島大学大学院准教授

「L-92乳酸菌」の免疫システムへの働き

鹿児島大学大学院准教授 橋本先生からは「L-92乳酸菌」がどのように免疫系を制御しているのか、そのメカニズムに関する研究成果が発表された。「L-92乳酸菌」はこれまでさまざまな研究からアトピーへの有効性が確認されているが、その免疫バランスに働きかけるメカニズムは完全には明らかになっていない。今回の発表では、より詳細な「L-92乳酸菌」の作用について解明が進んでいることが述べられた。免疫システムを制御する仕組みにおいて、「L-92乳酸菌」に含まれる「リボタンパク質」という成分が、重要な役割をしているらしい。この「リボタンパク質」の関与によって、腸管免疫組織でのバランス調整が促され、アレルギー反応を抑制できるのだそうだ。

また、免疫システムの制御には「リボタンパク質」の成分が関与するため、菌が生きていようが死んでいようが関係ないという。つまり、「L-92乳酸菌」が死菌であっても、菌体成分があれば問題なく免疫システムを調整できるらしい。

中西里映子 様

認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク常務理事

アレルギー支援ネットワークの現状と発展への展望

認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク常務理事を務める中西氏からは、アレルギー患者支援の取り組みについてお話しいただいた。中西氏によれば「全国的に見ればアレルギー患者の支援体制はまだまだ十分とは言えません。患者や患者家族へのサポートも同様です。患者家族の声からも、『アトピー対策のためには、まず何をすればいいのか?』『正しいスキンケアを教えてほしい』といった、切迫した現状が見てとれます。これからは先生方のアレルギー研究と併せて、私たちの活動でも、患者さんの治癒に少しでも早く結びつくよう取り組みを進めていく」との展望が示された。さらに、地域の患者会をサポートするためには、さまざまな専門家の方たちや自治体の方たちとネットワークを組んで理解を広げるということが大事だという。認定NPO法人アレルギー支援ネットワークの活動には、患者家族と医療機関、自治体、企業などをつなぐ中間支援組織として、今後さらなる発展が期待されるところだ。

「L-92乳酸菌」によって照らされたアトピー対策のこれから

鳥居先生、池澤先生お二方による総括からは、アトピー対策の今後の展望について大きな手応えと期待が感じられた。各先生の発表を受けて鳥居先生は「これだけいろいろな角度から『L-92乳酸菌』の効果が明らかになってきていることは大きな進歩だと言えます。特に成人アトピーへの有効性は非常にきれいなデータが出ており、年齢を問わず『L-92乳酸菌』の有効性が解明されていくことは、とても意義のある研究結果だといえるでしょう。他にも、通年性鼻炎や花粉症への効果がすでに報告されています。臨床医の立場からも、『L-92乳酸菌』の働きには非常に期待しています。」と総評を述べられた。

徐々に解明されつつある「L-92乳酸菌」の働き。また一歩、アトピー対策の新たな道が現実になってきたといっても過言ではないだろう。

最近では「L-92乳酸菌」を含んだ市販食品も

乳酸菌にはさまざまな種類が存在するが、「L-92乳酸菌」は、そうした食品からは摂れない特別な菌だった。しかし、最近では「L-92乳酸菌」を含んだものもつくられており、注目の的らしい。カラダの中から免疫バランスに働きかける「L-92乳酸菌」は、予想通りアレルギーケアの期待の星と言えそうだ。

抗アレルギー作用の解明が進むL-92乳酸菌「ラクトバチルス・アシドフィルスL-92株」の電子顕微鏡写真

アレルギーの新しい予防法や対策を発信する
アレルギーケアフォーラム

正式名称は「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム」。全国のアレルギー研究やアレルギー治療で名高い専門家が発起人となり、2007年11月に設立された第三者機関である。アレルギーを全身の病気そして環境・生活習慣病と捉えて、世の中に役立つ情報を発信している。